

くらしに彩り、豊かさと安心を届ける

いしづか がらす かぶしがいしゃ
石塚硝子株式会社

〒482-8510 岩倉市川井町 1880
TEL: 0587-37-2111
https://www.ishizuka.co.jp



■会社概要

1819(文政2)年に創業した総合容器・素材メーカーです。ガラス製造からスタートし容器分野で事業拡大、総合容器メーカーとして発展してきました。また、機能性マテリアルの開発や新規事業の創出により、新たな価値の提供を行っています。「くらしに彩り、豊かさと安心をお届けします」を使命として、いつの時代にも求められる企業を目指しています。2013(平成25)年に「愛知ブランド企業」に認定されています。岩倉市には1961(昭和36)年に工場を開設。食器事業への本格参入とびん事業の拡大の足掛かりとなりました。



PET ボトル用プリフォーム



ガラスびん・ガラス食器・PETボトル用プリフォームの製造で国内大手、新規事業の創出に取り組んでいる企業が岩倉市にあります。

人々の生活を支える 様々な容器

現在、岩倉工場では主にガラスびん、ガラス食器、PETボトル用プリフォーム、機能性マテリアルを製造しています。本社の3階にあるショールームには日々の生活で目にする、ガラスびん、ガラス食器、紙バック、PETボトルがたくさん並んでいます。特にPETボトルに膨らむ前の中間材であるPETボトル用プリフォームは国内トップシェアを誇っています。

また、機械でガラス食器を作っている企業は国内に2社しかなく、石塚硝子はそのうちの1社です。ガラスやお皿、調理用、保存用ガラス容器など、若い従業員の発想を活かしながら、新たな製品を開発・製造しています。

ガラスを超えて、 新たな世界を創造

機能性マテリアルである抗菌剤は、ガラスの粉に銀などを混ぜたもので、台所にあるまな板や三角コーナー、バススタブやトイレの便座、通勤電車のつり革などに使われています。

また、口臭ケアに特化した歯磨き粉や、レストランやホテルでお料理を温めるた

めに使用する業務用のガラス製ウオーマーの製造・販売など、新規事業の創出にも力を入れています。

「モノづくり ヒトづくり ユメづくり」を目指して

石塚硝子は2019年に200周年を迎えました。総合容器メーカーとして、世の中を支えてきた石塚硝子は、機能性マテリアルの開発や新規事業の創出など新たなステージでの挑戦を続けています。環境問題が注目される中、CO2排出量の削減や資源の有効活用による環境配慮に向けた取り組みも進めております。「モノづくり ヒトづくり ユメづくり」の3つの重なりを強みとして、変化を先取る強い企業であり続けます。

「誰が正しいかではなく、何が正しいか」時代が変化していく中で、正しさも変わっていきます。石塚硝子が大切にしている「誠実さ」を忘れず、これからも物事に真剣に向き合っていきます。



ガラス原料の1つである石灰石に、産業廃棄物となっている卵殻を代用する取り組みを実施。2023年愛知環境省優秀賞受賞。

ガラスリサイクルで環境保全に貢献する

かぶしがいいしゃ おおはら
株式会社 大原ガラスリサイクル
岩倉工場

〒482-0017 岩倉市北島町中野田36
TEL: 0587-66-6451
http://ohara-glass-recycle.com



■会社概要

1946(昭和21)年、名古屋市で創業したガラス瓶やガラスのリサイクル会社です。戦後、焼野原の中、現在の社長の祖父が資源やガラス瓶類を回収していたのが始まりです。

現在は、使用済みのガラスを再びガラスの材料にして、製瓶メーカーなどに納品しています。また、その他再生資源の選別なども行っています。

1975(昭和50)年、岩倉工場を整備しました。



「カレット」とは使用済みのガラス瓶などを細かくフレック状にしたガラス片のことです。昨今、「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」という言葉がよく使われ、環境に対する意識が高まっていますが、80年近く前からガラスのリサイクル事業に取り組んできた会社が岩倉市にあります。

愛知県内のガラス瓶は、ほとんどここに集合！

通常、ガラスはけい砂・ソーダ灰・石灰石などを原料とし、これらを1500℃に熱して作られます。しかし、実は溶けにくく、エネルギー効率も良くありません。一方、ガラスになったものを材料にすると1200℃で溶けるため、エネルギーの節約にもなり、値段も安くガラス瓶をつくることができます。その材料が「カレット」です。愛知県内の自治体から出されるガラス瓶の約90%が、無色・茶色・それ以外の3種に色分けされ、材料としてここに集まります。さらに中部圏や関東・関西からも回収します。それらを4cm以下のフレック状に加工し、主に地元の硝子会社にガラス瓶などの材料として納入します。

世界一のカレットの純度

カレットは純度が非常に重要であ

り、異物をいかに除去するかがポイントになります。紙パベルは剥離する機械を使い、鉄は磁石で吸着し、陶器類はカメラで自動識別してエアノズルで吹き飛ばします。こうした不純物除去技術の中には国内初のものもあり、機械を開発し特許を取得したものもあります。その結果、ここで作られるカレットの純度は99.999%レベルで世界トップクラスの純度です。

工場内は独自のプラントを考案し、キュービック状の立体を巧みに利用した構造となっています。一日の生産量約350トンにものぼるカレットが、屋外のストックヤードにうす高く積み上げられます。

ガラスが持つ力

一般的に軽さや利便性を重視する傾向があり、ガラス瓶の需要は以前に比べれば減少しています。しかし、内容物の品質維持が必要な場合はガラス瓶が利用されます。例えば、化粧品、薬品、調味料、日本酒、ワイン、ウイスキーなどには今後も使われるでしょう。さらに、環境負荷を低減する意味で軽量化されたガラス瓶なども市場に出てきていたり、環境面からリターナブル瓶などとして利用されることも増えています。ガラスが持つ魅力が見直されています。

「ガラス瓶を復権するのが私の夢」大原社長の言葉は、現代において、何が大切かを問いかける重い言葉に聞こえました。効率や便利さだけではないガラスに魅せられた大人の夢が詰まっている会社です。

ガラスをより美しく加工する

さかもと がら す こうぎょうかぶしがいいしゃ
坂本硝子工業 株式会社

〒482-0016 岩倉市野寄町高島19-1
TEL：0587-66-7811

■会社概要■

1921(大正10)年に名古屋市で創業したガラス加工会社です。創業当時、名古屋は時計の一大産地で時計の部品を作る工場がたくさんありました。その中で掛け時計用のガラス加工を担当し、ピーク時は月間16万枚の掛け時計用のガラスを生産していました。

1966(昭和41)年に岩倉市に工場を新設し、現在は、ガラス食器などの2次加工や、ガラス製のトロフィー、置物などの加工をしています。



自社で新しいガラス加工手法や加工道具を創り出したり、海外から新しい技術や機械を導入するなど、業界で知らない人はいないガラス加工会社が岩倉市にあります。

ガラスをより美しく加工する職人の世界

ガラスの2次加工方法は主に5種類あります。板ガラスを切断したりする板ガラス加工、それから表面に研磨材を吹き付けてすりガラスにするサンドブラスト加工、転写紙を貼って絵柄を焼き付ける焼付加工、ガラスに薄い透明金属膜をコーティングして焼き付けるラスター加工、ガラスの中にレーザーを当てて彫刻を施すレーザー加工です。

工業は様々な面で自動化が進んでいますが、ガラスの2次加工はすべてを自動化することは難しく、人間の手による加工が必要な職人の世界です。難しい特注品などは1日に100個〜200個しかつくれません。しかし、ここには長い歴史の中で装置・設備・治具などが揃っています。加工に関わる技術が積み重ねられ、引き継がれているため、ほとんどの2次加工を施すことが可能です。

常に技法開発、新しい加工法を導入

ガラスのサンドブラスト加工は2代目の社長が始めました。サンドブラストそのものは既に存在しており、板ガラスを

すりガラスにする装置はあったのですが、食器などに部分的に模様を入れたりする装置を独学で開発しました。昭和30年頃の話です。

最近では、ガラスブロックの中に立体像を浮かび上がらせるレーザー加工機をドイツから導入しました。これはレーザーで局所的に熱ストレスを加えてマイクロクラックを作り出し、その小さな「割れ」の集合体が白く立体像に見える加工です。この方法は、数値情報をコンピュータに入力して加工するNC加工となり、再現したい立体物の数値情報をどのように測定して入力するかにかかっています。この加工はガラス製トロフィーや置物などに活用されています。

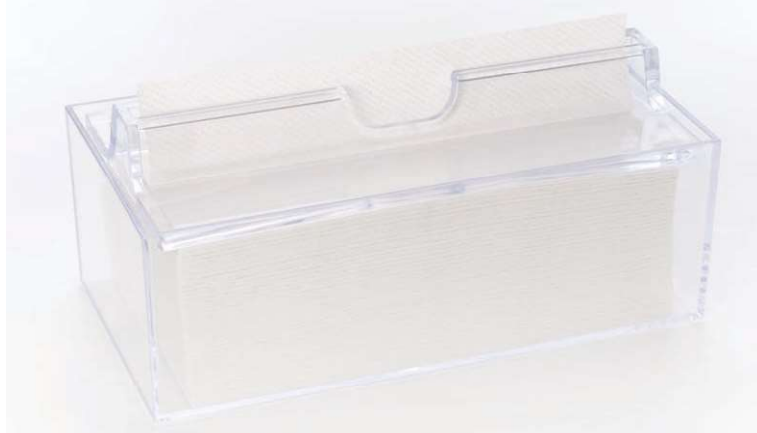
そのほかにも切子を応用したものやチタン融着など様々な加工法を開発しています。



「常に新たなことに関心を寄せたり挑戦しないと我々が生きて行く道がないのではないかと思います。どうして?どうして?を繰り返す探究心が大切だと思います。」

終わりのない探究心が創業100周年を迎えた坂本硝子工業(株)を支えています。

人によし、社会によし、未来によし。



化成品、環境産業製品という言葉を知ったことがあるでしょうか。あまり耳慣れない言葉かもしれませんが、私たちが日常で使っているものや工場で使用されるものの材料として、様々な用途で活用されています。その製造を行っている会社が岩倉市にあります。

化成品って何？

化成品とは、天然油脂や石油化学原料を使って作る界面活性剤などのことです。界面活性剤は水に溶けないものを水に溶けるようにするもので、たくさんの種類があります。それぞれの特性を利用して、シャンプーやリンス、化粧品、柔軟仕上げ剤、車や工場の機械などの洗浄剤として使われています。その他、紙バルブをやわらかくしたり、手触りをよくする効果を活用して、花粉症の時期に大活躍するやわらかいティッシュの材料にもなっています。

さらに、名古屋工場に併設されている油化技術センターでは、付加価値の高い化成品の研究開発に取り組んでいます。

環境を守る商品を開発・生産

各企業では水銀や鉛などの有害な金属物質も必要に応じて使用しています。ここでは、そこで出る排水などの中の有害な物質を除去する薬剤も生産しています。廃水の中に入れて、有害物質を凝固・沈殿させて、回収し、きれいにした上澄みを流すものです。

また、ゴミ焼却場で発生する有害な灰を廃棄場所に埋めた後、雨が降った時に酸性雨の影響などで重金属が溶けて流れ出すのを防ぐための商品や、汚染土壌の中に入っている有害金属を固める商品もあります。

これらの商品は物質を無害化するというよりは固定化するという考え方で、ほとんどを名古屋工場で作っています。

私たちは「人によし、社会によし、未来によし。」を経営理念のもと、油脂の力を活かしたもののづくりを通して、すべての人から信頼される企業であり続けることを目指します。

人によし 私たちは一人ひとりの生活者にお取引先、社員、株主、その他事業に関わるすべての人を尊重し、また、人と人の繋がりを大切にします。

社会によし 私たちは常に誠実に事業を行うことを旨とし、ものづくりを通して社会に貢献し、信頼され、必要とされる存在であり続けます。

未来によし 私たちは不断の創意工夫を重ね、新しい価値のあるものを生みだし、健やかで豊かな未来の創造に貢献します。

私たちはこれからも「油脂」の力を最大限に活用し、健全な社会の発展に寄与していきたいと思っています。



ゆ し かぶしきがいしゃ
ミヨシ油脂株式会社
名古屋工場

〒482-8511 岩倉市野寄町西出 1-1
TEL: 0587-37-5111
<https://www.miyoshi-yushi.co.jp>



■会社概要

1921（大正 10）年に創立した繊維工業せつけんや繊維油剤の製造会社です。その後、マーガリンやホイップクリームなどの食品分野に進出し、現在は食品部門と油化部門の 2 部門を柱に事業を進めています。

岩倉市には、合成洗剤・化成品・食用油脂製造設備を建設し、1968（昭和 43）年に操業をはじめ、1989（平成元）年には油化技術センターを併設しました。

現在、化成品（香粧品原料、製紙/パルプ用薬剤、繊維用薬剤など）、環境産業商品（廃水用重金属処理剤など）の生産と、付加価値の高い化成品の研究開発に取り組んでいます。

提案力を活かした治具製作と機械加工

かふしきがいしゃ
株式会社アイセイテクノ

〒482-0017 岩倉市北島町西道海戸 17
TEL: 0587-65-3650
http://www.kk-aisei.jp/company



■会社概要

大手工作機械メーカーや設備会社で経験を積んだ櫻井社長は、1994（平成6）年に個人事業として独立し、他事業所に仕事を委託しながら事業基盤を整えました。

その後、機械を導入して製造にも着手。少しずつ規模を拡大し、現在の社屋を建設。1999（平成11）年、有限会社としてアイセイテクノを設立し、後に株式会社へ移行しました。



スマートフォン、テレビ、自動車などの部品を大量生産するためには、「誰でも」「正確に」作業ができる必要があります。それを可能にする「治具」や「装置」を製造している会社が岩倉市にあります。

社名の由来

「アイセイテクノ」は、会社設立の前に櫻井社長が定期的に参加していた勉強会で席を並べていた仲間が付けてくれた名前です。「アイセイ」には「愛知の西」、「愛と誠」、「Isa y」などの意味が込められています。

現在、事業の割合は治具製作が2割、機械加工部品製作が8割を占めています。他にも、駐車場の精算機・券売機を月20台生産していたことがあり、累計1500台ほど出荷してきました。依頼に応じてメンテナンスや集金も行っています。

治具・機械加工とは

治具は、機械加工や測定、組み立て作業を効率化するための補助装置です。加工する部品や工具の位置を正確に保つ役割があり、作業者の熟練度に依存せずに品質のばらつきを防ぐことができます。

大量生産を行うためには欠かせない存在で、治具があることで、位置決めや段取りにかかる時間が大幅に短縮されます。治具の注文の場合、客先から仕様書をいただくのをそれを元に図面を起こ

し、承認を受けてから製作となります。機械加工部品の製作は、素材を削ったり、穴を開けたりと、一台で何役もこなすマシニングセンタやワイヤーカットなどの工作機械で行っています。

設計から製造まで知っている強み

強みは設計から製造まで一貫してものづくりを理解していること。そのため、時には顧客から受け取った図面の内容を見て、製造過程でのコストダウンの提案を行うこともあります。例えば、図面では表面処理がメッキ指定になっていても、塗装で問題ないと判断できる場合はその選択肢を提案するといったことが挙げられます。

「こちらから提案することで、より価値を高めてお客様のニーズを形にする」という姿勢を大切にしています。提案することでアイセイテクノのオリジナルティが出せることにも繋がり、それが「ものづくりの楽しみ」と櫻井社長は感じています。

会社設立時のメンバーは定年退職が近づいており、次世代へのバトンタッチを検討しています。櫻井社長は「これまでのやり方を引き継いでほしいというより、新しい世代が自ら考え行動してほしい」と期待を寄せています。



駐車場用券売機

特殊なプラスチックで産業界を支える

かぶしがいいや

株式会社 アイワ

〒482-0032 岩倉市井上町種畑 20

TEL: 0587-37-8300

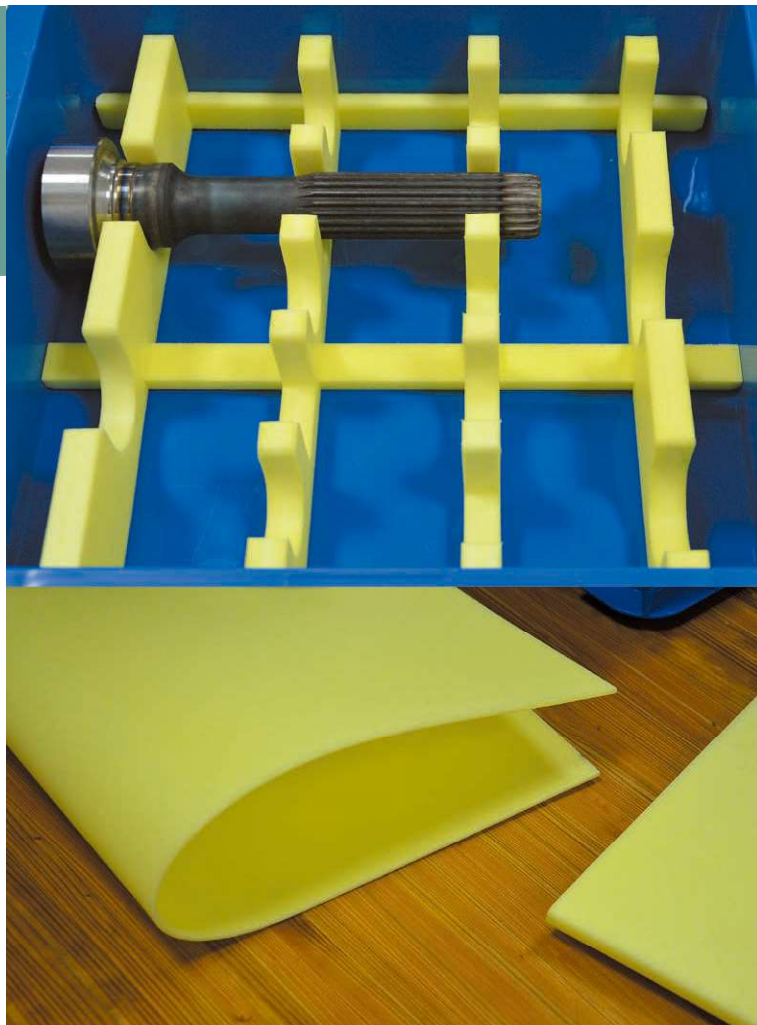
<https://www.aiwacorporation.com>

■会社概要■

1977(昭和52)年に一宮市で創業したプラスチック製品を作っている会社です。岩倉市には1984(昭和59)年に移転しました。

「可能性の追求」を企業理念に掲げ、創業から継続的に新たな商品開発・改良に果敢に挑戦しています。1996(平成8)年には科学技術庁長官「注目発明選定証」を受賞、2006(平成18)年には「愛知ブランド企業」に認定されています。

同じような業種の会社が海外に進出する中、国内生産にこだわりを持って製造している会社です。



「木のようなプラスチック」や「酸・アルカリ・有機溶剤にも溶けないプラスチック」など特殊なプラスチックをつくっている会社が岩倉市にあります。

木のようなプラスチック!?

その名も「デュラウッド」と言います。プラスチックを2倍に発泡させたもので、通常のプラスチックより軽く、簡単に加工できるのが特徴です。例えば、のこぎりで切ったり、くぎを打ったり、ネジくぎでの接合も可能です。木のような特性を合わせ持つていて堅く、強いので「合成木材」とも言われていますが、二つ折りにしても割れない柔軟性をもち、耐水性があり腐らないなど木材がもつ欠点をクリアした素材です。

私たちの身近にある発泡スチロールはプラスチックを20〜50倍に発泡させたもので高発泡プラスチックと言いますが、それに対してこのデュラウッドは低発泡プラスチックと呼ばれています。

デュラウッドと車やアイスクリームの関係

デュラウッドは、自動車部品を工場から工場へと搬送するときの通函(かよいばこ)に、部品に傷がつかないよう保護するための緩衝材として活用されています。

通常、自動車のモデルチェンジは6年毎に行われるのですが、その間は同じ部品を製造・運搬しますので通函の緩衝材も耐久性があることが望ましく、この製

品はその要望に十分応えています。

また、結露しないという特徴をいかして、アイスクリームや魚などを運ぶ冷凍車や冷凍倉庫内の壁の緩衝材に利用されていたり、住宅のフローリングの下部の吸音・断熱材の固定にも使われています。

常に研究と顧客からのニーズを把握しながら改良を続け、デュラウッドで47年間も販売を続けています。普段目にする車や食べている食品の運搬に欠かせない製品です。

アイフロンとAIやおにぎりとの関係

もう一つ特徴的な製品として「アイフロン成形品」があります。この素材は酸・アルカリやシンナーなどの有機溶剤に強く、300℃の高温にも耐えます。スマートフォン、AI家電など、身の回りの多くの電化製品には半導体が使われていますが、このような半導体の製造工場の機械に使われています。また、食品業界向けのおにぎり加工用の「型」にも使われていますのでお昼に購入したおにぎりはこの型を使って作られているかもしれません。

会社を訪れた際、(株)アイワの玄関では、名前入りのウェルカムボードが招き入れてくれました。

創業当時から挑戦と改善が続けている(株)アイワ。来訪者への心配りにもその精神があらわれていました。近く創業50周年を迎えるアイワの挑戦はまだ続きます。

金属加工で製造業を支える

いしぐろうこうぎようしょ かぶしきがいしゃ
石黒工業所 株式会社

〒482-0041 岩倉市東町東市場屋敷 45-1

TEL : 0587-66-1141

http://www.ishiguro-ind.co.jp



■会社概要

1964(昭和39)年に創業した金属加工会社。経営理念は「人と企業と自然が調和した、活力とゆとりある社会の発展への貢献」です。また、環境理念を持ち、地球環境保全に十分配慮した企業活動に取り組んでいます。

主な取引先は国内販売向けに事業をしている企業で、大手企業との取引も多く、東海地域だけではなく九州や関東から受注しています。



大手製造業メーカーが販売している自動販売機・印刷機器などの部品を製作している会社が岩倉市にあります。

石黒工業所がつくっているもの

ここでは電気温水器や燃費機械・工作機械用のポンプの部品、様々な機械の部品になるナットやシャフト、特殊ホースの継手部分、エアガン用の先端アタッチメントなどをつくっています。

身近な製品としては、歩道や駅のホームなどに設置してある視覚障害者用の点字ブロックに使われる突起部品(ステンレス)や、地球ごまの「軸」とこまを飾る「飾り台」も製作しています。

金属製品加工の専門家集団

金属加工で最もよく使われる機械に「旋盤(せんばん)」というものがあります。旋盤とは、円柱状の材料を回してそれに刃(バイト)を当てて削る工作機械で、これを使って真ちゅうやアルミ、ステンレスなどを加工し、金属部品をつくります。ここでは直径46mmぐらいの丸材から細いものまでかなり複雑な形に加工したり、材料を連続的に供給できる旋盤があります。

コンピュータ制御の加工機「NC旋盤」では、図面から加工用の数値をコンピュータに入れるため、三角関数などの数学の知識も必要になります。

いずれの製品も多品種小ロットが基本で、1回で500〜1000個のものを

製作していることが多いため、毎日のように機械のセットを変更しています。そのため、スタッフの知識と能力が重要となります。

旋盤で特殊な加工をするためには専用の刃が必要になりますが、刃を刃物メーカーに依頼すると時間と費用がかかります。しかし、ここには刃そのものを作る技術を持った職人がいるので、短納期での生産を実現しています。



仕事は経営が重要 大切なのは信頼関係

日本の製造業を持続可能にするために、正当な金額で取引することを心がけています。どうしても折り合いがつかない時には「加工できない」と断ることもあります。また、堅実な経営を目指し、売上よりも利益率を常に考えて取引しています。これらを実現するためには客先との強い信頼関係が必要であり、「かけひき」のない本音の話し合いに努めています。

「夢と希望は大切ですが現実には甘くない。未来が楽になるように考えることが工夫につながります」 石黒工業所(株)は、創業60周年を迎えました。石黒社長は等身大で、客先も自社も双方が事業継続できる道をひたむきに歩んでいます。

進化する素材と戦い続ける

かぶしがいいしゃ
株式会社エムズ

〒482-0005 岩倉市下本町天神塚 208
TEL: 0587-38-0407
https://www.ms-cold.com



■ 会社概要

2004 (平成 16) 年に設立した、合成樹脂の成形・加工及び販売会社です。

親会社は株式会社宮下製作所で、以前は宮下製作所の一部門として自動車部品の製造及び加工を行っていました。

その後、工場の移転に伴って静岡県に進出しましたが、社長が、生まれ育った岩倉市での事業も継続したいという郷土への想いから、現在の樹脂加工事業を開始しました。



「エンジニアリングプラスチック」という言葉を聞いたことがありますか。身近なもので言えば、プラスチック製の「まな板」の素材などがそれにあたります。強度が強く、耐熱性、耐摩耗性、耐油性、伝導性等の特定の機能を向上させたプラスチックです。そのエンジニアリングプラスチックの加工を行っている会社が岩倉市にあります。

対応する材料の種類は100種類以上！

仕事は、お客様から注文いただいた仕様（材料など）と図面に従って、素材を準備し、加工機械（NCマシン）に数値を入力（プログラミング）して加工します。いろいろな分野の製品を、少量単位で受注生産・加工していますが、納入は約1週間の短納期となるよう努力しており、この対応力は強みだと考えています。

ほとんどが特性部品で、自動車、航空機、食品などの製造・加工現場などで使われているため、一般の方の目に触れるような場所では使われていることは非常に少ないです。

エンジニアリングプラスチックは、特性の異なるたくさんの種類があることが特徴ですが、いづどんな材料の注文を受けるかわからないため、常時100種類以上の材料を揃えています。中には、少しの量で100万円以上するものもあります。市場の変化に対応するため、加工が難しい新しい素材にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

作業者の感性で製品が変わる

昔は、切削工具を自分で開発したり、素材の形状に応じて機械や刃物を変えたり、いろいろなノウハウが必要でしたが、加工機械の精度が高まり、以前のような職人技的な面を活かせる部分は少なくなっています。

しかし、機械特性に合わせた微妙な数値調整や、加工手順の決定、機械の送り速度の設定、加工用の刃物の交換タイミングの違いなどによって、製品加工面などの仕上がりに違いが出てくることもあり、「作業者の感性」が製品の精度の重要な要素になっていると言えます。

量産現場を支える治工具

部品ではなく、量産工程での作業をやりやすくするための「治工具」というものの製作を依頼されることもあります。

現場には量産工程で監督者を担っていた社員もいるので、お客様のニーズや使い方を伺って、より使いやすい治工具を提案することもできます。0から考えて形になった時はやはり嬉しいものです。

「どこまで行っても”人”だと思っています。トップの方針と、それを中間で指揮する人、そして作業する人、全ての歯車をかみ合わせながら、人を大事にしながら企業が発展できるようにする。会社は、やはり”人”なんです。」と宮下社長が語ってくれました。整理された工場内や気持ち良く対応してくださる社員の方々の姿勢が、その社長の言葉を体現されています。

多用途で多業界を支えるゴムローラー

かぶしがいいしやおがわ こうぎょうしょ
株式会社小川ローラー工業所

〒482-0031 岩倉市八剣町大坪 60-1
TEL: 0587-66-0416

■会社概要

(株) 小川ローラー工業所は、創立1979（昭和 54）年という歴史を持つ企業です。

2022（令和 4）年には経営陣を刷新しました。これを機に今まで以上に設備投資と福利厚生に力を入れ、機械と設備を新しいものに更新していく予定です。この更新でより生産性を向上させ、従業員が安全で働きやすい労働環境に整えることを目指しています。



フィルム、紙製品、印刷物、飲料缶、スマートフォンなどあなたの身の回りにもあるものが作られるのに欠かせないのがゴムローラーです。そんなゴムローラーを製造する会社が岩倉市にあります。

ものづくりの現場で大活躍

ゴムローラーは、鉄などの円筒状のローラー芯材に合成ゴムやウレタンゴムなどを巻いたものです。「押さえる」「引き伸ばす」「転写する」「引っ張る」「搬送する」など多様な用途で使用されます。

弊社が納入するローラーは、例えば「プラスチックフィルムの製膜」「製紙」「製鉄」などの製造工程で使われています。金属製ローラーだけでなく、ゴムローラーを使用することで製品に傷が入りにくくしたり、押し当てて製品の巻取りや張り合わせをより強くしたり、水や溶液を製品からより絞れるようにしたり、凹凸のあるもの等に対してもきれいに塗工したりと様々な利点があります。また、ゴム表面に溝加工やクラウン加工や表面処理を施すことにより、製品の蛇行防止やシワ伸ばし、すべり性や離型性の向上による汚れ防止等、生産工程における様々な悩みを解決することも可能です。

様々なニーズに応えられる

弊社は、ゴムローラー製造と販売を行っています。多品種を扱っているため、お客様の様々なニーズに応えることができます。用途に合わせて選ぶことのできる

ゴムの種類は数百種類に及び、大きさは手のひらサイズから4メートルを超えるものまで幅広く社内に対応しています。

加えて、10メートルを超えるようなローラーも取り扱うことができます。非常に特殊なものを除けば、取り扱えないローラーはありません。

ゴムの特性を引き出す「加硫」

製造には「加硫」という工程があります。元来引き伸ばすと千切れる性質の生ゴムが、硫化剤という薬品を混ぜて加熱することで化学変化を起こし、伸縮性を持つようになります。

専用の装置「加硫缶」でこの工程を行います。ゴムローラーを取り出す際には、100度以上の蒸気が立ち上り、特に夏場は暑くて大変です。その後、旋盤で削り、お客様の要望に合わせて仕上げます。

ゴムローラーはものすごいスピードで回転させて使用されることが多いため、摩耗が進みます。そのような場合、お客様からお預かりし、鉄芯からゴムを剥がして新たに巻き直すメンテナンスも行っています。



「ローラーは一品一様で、最終的には手で仕上げます。うちには熟練した職人がおり、ノウハウがあるためたくさんのお客様より様々なご依頼をいただいております」と力を込める松本専務取締役。長年に渡って丁寧なものづくりをしているという自負が滲み出ていました。

3Dプリンターで試作のものづくりを極める

かぶしがいいしゃ
株式会社クリモト

〒482-0017 岩倉市北島町寺田 6
TEL: 0587-66-8801
http://www.kmkogyo.co.jp



■会社概要

1988（昭和 63）年に KM 栗本工業として個人形態で事業を開始。1990（平成 2）年に有限会社を設立。1999（平成 11）年、試作金型事業と光造形事業を開始し、2003（平成 15）年に株式会社化しました。2011（平成 23）年に岩倉市に本社を移転し 2014（平成 26）年に社名を株式会社クリモトに変更。3Dプリンターによる試作品製作のリーディングカンパニーとして高い技術を誇っています。



皆さんは東海地区で1位2位を争う早さで「3Dプリンター」を導入した会社が岩倉市にあることを知っていますか。

高質・短納期・低コストを実現

3Dプリンターを用いた試作品製作を行っています。自動車関連企業からの注文が全体の7〜8割を占め、主にプラスチック部品の開発・試作支援をしています。大量生産をする前の開発段階で試作品を作ることは、自動車の安全性を担保するためにとっても重要です。

開発のものづくりをする上で高品質・短納期・低コストの3点をとても大切にしています。3Dプリンターは樹脂・金属含め約30台あり、中には日本に数台しかない大型金属3Dプリンターも保有しています。

3Dプリンターはパソコンの3次元CADデータを入力して立体物を作ることができます。少量を短時間で作ることに適しており、お客様の「すぐに試作品が見たい」という要望に応えることができます。3Dプリンターの他にも切削加工を行うマシニングセンタという工作機械を有し、必要に応じて使い分けています。また、試作品がお客様から頂いた仕様書の通りにできていることを保証するために、CTスキャンや3Dスキャンなどを用いた測定も行っています。

技術の積み重ねが仕上がりに出る

元々は亜鉛合金の鋳造を行う会社でし

たが、25年ほど前に3次元CADでの立体的なデザインが可能になった時代の変化に合わせて3Dプリンターを思い切って導入し、現在に至ります。単に機械を操作するだけではなく、その先の作り込みの技術は、やはり長い間試行錯誤しないと身につかないと自負しています。

最近では新たな分野の仕事も増えています。例えば、医療分野では背骨のインプラントや、皮膚の感触を再現した遠隔手術ロボット用の練習キットを作りました。航空宇宙業界でも金属造形や多品種少ロットの強みを活かして開発試作を行っています。

地域とつながるための取り組み

地域社会とのつながりも大切にしています。「いわくら市民ふれあまつり」に参加しており、ミニゲームの景品で3Dプリンターの造形品をお渡ししました。また、地元の子ども達を集めてサッカー大会を開催し、クリスマスカップも実施しています。

このような活動は、「クリモトをもっと身近に感じてほしい」という思いから行っています。3Dプリンターによる試作という仕事を地域の方々に少しでも知っていただくことを願っています。

「3Dプリンターでもマシニング機械加工でも、お客様の目線に立ってニーズに応えるっていつのほすごく大事なじゃないかなと思います」と栗本英年代表取締役は高校生の私たちに語ってくれました。（株）クリモトはニーズにしっかり応えることで、ものづくりの世界で強みを生かし、たくさんの方に必要とされる存在であり続けているのだと思いました。

困りごとを解決する唯一無二の機械づくり

かぶしがいいや
テクノリンク株式会社

〒482-0015 岩倉市川井町浮田 30
TEL: 0587-37-3137
<https://www.technolink-sm.co.jp>



■ 会社概要

1966 (昭和 41) 年にポッカレモン (株) の機械部として発足し、1983 (昭和 58) 年にポッカマシン (株) として独立。2013 (平成 25) 年からはポッカサッポロフード & ビバレッジ (株) の子会社として事業を展開しましたが、2024 (令和 6) 年 3 月 1 日に株式譲渡により芝浦機械 (株) の完全子会社となり、社名をテクノリンク (株) に変更しました。

2007 (平成 19) 年には愛知県内の優れたものづくり企業を認定する制度「愛知ブランド企業」に認定されています。



お客様の要望に全力で応える
注文を受けてから 1 台 1 台機械を設計する受注生産方式を取っています。「できますか」と相談されれば、何でもやるという気概で臨み、お客様が抱える問題や要望に対し、設計段階から試作・製造さらにはアフターサービスに至るまで、フルサポートを行うことで、最適な解決策を提供しています。

例えば、スティックアイスを数本ずつ箱に詰めていくカートニングマシンという機械であれば、アイスのサイズや箱の

生産現場を支える機械を作る
飲料、食品、生活雑貨、自動車、梱包など、毎日の生活に欠かせないさまざまな分野で活躍する設備機械を作り出しています。製品は主に「飲料・食品包装設備」「自動車部品・組立設備」「樹脂容器成形付帯設備」の 3 ジャンルです。

例えば、酸化防止のために多層構造にした醬油ボトルを製造する機械、灯油缶を作る機械、缶飲料の殺菌装置、ペットボトルをダンボールに箱詰めする装置など、私たちの生活に密接に関わる製品の生産を支える機械を手掛けています。

私たちが日常で手にするペットボトル飲料や缶ジュース。容器や中身がどのようにに生産されているか考えたことはありませんか。その生産現場を支えるのが、岩倉市に本社を置くテクノリンクの革新的な機械です。



中尾代表取締役社長は、新たな環境でのスタートを好機と捉え、さらなる成長に向けて挑戦を続ける意欲を語っています。

令和 6 年 3 月 1 日、テクノリンクは成形機、工作機械、制御機械などを手掛けて世界中のものづくりを支える芝浦機械 (株) の完全子会社となりました。

「東証プライム上場企業の子会社になったことで、運営体制の見直しや、様々な基準の踏襲などやるべきことが色々あるので、日々懸命に取り組んでいます。芝浦機械と連携し、付加価値を生み出す役割を果たしていけるよう努めていきます。」

失敗を確かな技術力の糧に
一品一様の受注生産が実現できるという強みは社員の技術力があってこそ成り立っています。

毎回、異なる分野の案件に取り組むので、営業、設計、調達、製造、組立、全工程に携わる社員が勉強し続けなければなりません。新しいことに挑戦するには失敗が付きものですが、社員たちは創業時から掲げる「積極進取」の精神で改善を積み重ね、技術力を上げています。

細く、長い、シャフトだけを作り続ける

にしんこうぎょうかぶしがいいしゃ
日清工業株式会社

〒482-0031 岩倉市八剣町江迎 8-1
TEL: 0587-37-1245
https://nisshin-industry.jp



■会社概要

1968（昭和 43）年に設立した、モーター用シャフト、機械部品の製造販売会社です。2017（平成 29）年 2 月は第 50 期の節目となりました。

経営理念は「シャフト造りと機械加工を通じて社会に貢献しよう」。SDGs（持続可能な開発目標）の理念を取り入れた環境経営を推進、品質の継続的改善に努め、企業に求められる社会的責任という使命に向き合っています。

地域とのつながりも重視し、毎月 1 回会社の周りの清掃活動を実施しています。



扇風機や洗濯機などの家電機器、工場などにある産業用機械など、身の回りのあらゆるモノに「モーター」が使われています。そのモーターの軸（シャフト）を専門に作っている会社が岩倉市にあります。

月に製造するシャフトの種類は 300～400 種類！

家電機器に使用される「汎用モーターの軸」も工作機用に使われる「産業用モーターの軸」も両方製造しています。かつては、汎用モーター軸が中心でしたが、家電機器の製造が海外へと進出する中で、20 年ぐらい前から、付加価値の高い産業用モーター軸へとシフトしてきました。今は産業用モーター軸が約 80% を占めています。産業用モーター軸の平均的な注文は 50～100 個と少なく、「5 本、10 本作ってください」という注文が入ることもあります。少ない注文に対応するため、1 つの機械で 1 日に 5 種類の製品を製造することもあります。太さ 5～130 ミリ、長さ 10～800 ミリに対応でき、毎月 3000～4000 種類の軸を製造しています。

納期が短く、難しい注文をいただくこともありますが、「困ったら日清」と頼っていただけの存在になるため、調整能力、交渉力を活かして対応しています。そのため、お客様とのコミュニケーションをとっても大切にしています。

納入先は全国にあり、大手メーカーとも直接取引しています。うちの製品は工作機に使われることが多いため街で見か

けることは少ないですが、スーパーにあるレジのお札の自動吸取・排出部分のモーターや、ATM の紙幣を出し入れする機構部分に使われています。

品質維持のキーワードは「管理」

今、日本では、品質がよいのは当たり前です。その品質維持にあたっては、機械が維持するものと管理面で維持するものがあると考えています。

機械では、全ての機械にオプションで測定器を設置しており、品質を管理できる状態にしています。さらに、管理面では、測定器のブレによって研磨が不十分になる可能性もあるため、最終的には様々な加工工程で人が全数検査するルールを設けています。従業員には「技術」に加えて「品質に対する意識」が求められると思っています。

品質管理には職場環境を整えることも大切です。うちは平均 38 歳ぐらいの若い会社です。賞与期には代表取締役社長が社員全員と面談を行い、現場の声を聞いています。丁寧で高品質な作業を行いながら、従業員にとって働きやすい会社作りにも取り組んでいます。

「私自身が変わらないうち」と思った時に周りも変わってきたように思います。やりがいがあるかどうかは自分が決めるもの。想いを言葉に出して、やり遂げる覚悟で取り組むことが大切だと思います。」「板前からシャフト製造会社に転職し、日々勉強を重ねてこられた樋口社長。手応えを自信に、会社の更なる成長をめざします。」

排水処理技術で地球を持続可能にする

にほん こうぎょうかぶしきがいしゃ
日本エンバイロ工業株式会社

〒482-0014 岩倉市大山寺町神田 45
TEL: 0587-22-6557
http://j-enviro.co.jp



■ 会社概要

1975（昭和 50）年に設立した公害防止機器の開発・製造をする会社です。本社、東京支店の 2 ヶ所の事務所、大阪営業部、名古屋営業部で仕事を受注し、本社のそばにある工場で組立、検査、出荷を行なっています。2 日ほどで組み上がる機械から、縦 13 メートル、横 40 メートル、高さ 8 メートルの敷地に収める大規模な設備まで納入実績があります。2024（令和 6）年 12 月現在の社員数は 28 名。少人数で高い技術力を持つものづくりをしていることが強みです。



社会が繁栄するために欠かせない企業活動。その裏で、排出される有害物質が環境に悪影響を与え、私たちの健康を脅かすこともあります。そんな中、先進技術を駆使して有害物質を取り除く機械を開発・製造し、地球環境を守っている会社が岩倉市にあります。

公害対策の時代に設立

戦後の高度経済成長期は、日本が急速な工業化と経済発展を遂げた時期ですが、一方で公害問題が深刻化しました。その状況を受けて 1970（昭和 45）年に公害関係 14 法律が成立し、企業は自社の企業活動から出る汚染物質を適切に管理することを求められるようになりました。

弊社は、法律成立の 5 年後である 1975（昭和 50）年に設立し、主に中小企業が公害対策を進めるための機械や設備を設計・製造・販売しています。

環境を守る排水処理技術

「自然みずからの浄化能力に任せることのできる段階まで処理する」機械を長年のノウハウと実績で世の中に送り出しています。

弊社の製品は、メッキを扱う企業で多くご利用いただいています。メッキ工程で使用する化学薬品や金属が排水の中に含まれることがあり、それらを適切に処理しないと環境汚染を引き起こすからです。

フィルタープレスという機械は、工場から排出される泥状の液体の中から、有害物質を圧縮して取り除き、排水を国の放流基準値内に収めます。有害物質を取り除いて液体を繰り返し使えるようにする、ろ過機も扱っています。

持続可能な環境のために

「自然と人の共生を第一に考える」ことを基本にしている、そのコンセプトを製品に反映させています。

泥状の液体の中から有害物質を圧縮して取り除くフィルタープレスでは、「ろ布」が有害物質を液体から分離する役割をしています。他社では、ろ布が汚れたら廃棄する仕様になっていることが多いのですが、当社では洗浄して繰り返し使えるように設計されており、環境負荷を低減しています。

また、工場で使用する際の消費電力を減らし、CO₂削減に貢献するため、フィルタープレスには圧力を検知して一時停止させるシステムを搭載しており、特許を取得しています。



「2025（令和 7）年に創業 50 周年を迎えることを機に、IoT 機能を備えた機械の開発や、技術者の採用・育成に益々力を入れていきたいと思っています」と朗らかに語る桐澤代表取締役。その言葉から、技術開発にかける前向きで熱い情熱が垣間見えます。

命を守る金物をつくる

ゆうげんがいしゃ みや た てっこう
有限会社 宮田鉄工

〒482-0035 岩倉市鈴井町蔵前 4
TEL: 0587-37-1569
<https://taishin-shelter.co.jp>



■会社概要

1963(昭和38)年に創業した建築金物の製造加工会社です。

「たくさん笑顔を守りたい! 常に考え、創造し挑戦する」をモットーに、品質の向上や木製部材の新しい接合構造と接続金物の開発に取り組んでいます。

最近、金物の開発・製造だけでなく、自社の製品をたくさんの人に使用してもらうため、商品の開発・販売にも取り組んでいます。



建物には、基礎と構造材の間や、構造材と構造材の間に「建築接合金物」が隠れており、強度が生み出されています。作業しやすく、建物の安全に効果的な建築金物を開発・製造する会社が岩倉市にあります。

苦境から生まれた金物

中国などからの輸入品が増え、国内の建築金物業が衰退しました。業界に所属する企業はかつて100社ぐらいありましたが、現在国内だけで事業展開しているのは数社程度です。これも非常に苦しい状態でした。

そこで輸入品と勝負するのではなく独自のものを開発しようと考えました。阪神淡路大震災以降、「命を守ることはたくさん笑顔を守ることだ」と考えていたので耐震に有効な金物の開発に取り組みました。そして生まれたのが柱材を接合する「耐震ダボパイプ」金物です。

命を守る耐震シェルター「剛建」

「耐震ダボパイプ」金物は大学の協力を得て、強度・耐震性について有用な実験結果が出ていましたが、建物に利用した実績がないため、取り扱ってくれる業者がありません。しかし、実績をつくるために一軒の家を建てるのは容易ではなく、「この金物の強度を最大限に活かして実績をつくる方法」を考えていました。そこで考え付いたのが「耐震シェルター」でした。

これは、今住んでいる住宅の一室の中に、90度の木材と「耐震ダボパイプ」金物で、より強固で安全な空間を確保するものです。

これまで住宅自体の耐震補強が進められてきましたが、高い費用がかかるためなかなか進んでいませんでした。高齢者だけで生活している住宅などではなおさらです。そこで、特に「古い住宅にお年寄りだけで住んでいて、お金をかけずに安全を確保したい方」を対象に、設置しやすい金額になるように建材メーカーの協力を得たり、補助金ができるように認定も取得しました。

「耐震ダボパイプ」金物はハンマーを使わなくても木材と木材を接合することができます。今後、耐震シェルターを応用した災害復興住宅の開発も考えています。

「自社製品を作ったことでクレームがここに来るようになった。クレームは製品の改善の貴重な意見だ」と語る宮田社長。宮田社長のものづくり魂はさらに熱く燃えています。



生産効率を上げる縁の下の力持ち

かぶしがいしゃ

株式会社ユニカ

〒482-0015 岩倉市川井町萱野南 1-5

TEL: 0587-50-2310

https://www.unica-co.com



■ 会社概要

1960 (昭和 35) 年からトヨタ耕耘機の販売元などを経て、1974 (昭和 49) 年に西春日井郡清洲町で設立。豊田自動織機 97%、愛知製鋼 3% 出資の会社で、豊田自動織機が扱う産業車両のうち、水平搬送機器の受託生産を中心に事業を展開しています。

2024 (令和 6) 年 8 月、岩倉市に移転。同年 10 月に設立 50 周年を迎えました。新社屋と工場には省エネ効果の高いシステムを導入し、いわくらゼロカーボン事業者認証のシルバー認証を受けています。



工場内の搬送場面で活躍

水平搬送とは、水平方向に荷物を運ぶことです。リフトやエレベーターなどで荷物を上下に運ぶ垂直搬送と対比してそのように呼ばれます。

主力の水平搬送車両は、積荷を引っ張って走るけん引車と、車体の一部に積荷を載せて運ぶ積載車で、主に工場や倉庫などで活躍しています。

工場では、工程間の部品搬送や組立ラインへの部品供給が欠かせません。けん引車や積載車を使うことで、一人でも多量の荷物を一度に運ぶことができます。一人当たりの運搬数量が増えることで、ライン全体の生産効率が上がるというメリットが生まれます。

具体的な商品としては、ユニカオリジナル製品の小型電動構内運搬・けん引車「ユニエレカくるる」や、豊田自動織機が扱う小型電動けん引車「タグノバ」が挙げられます。豊田自動織機の子会社として、それらを受託生産しています。

ものづくりの全機能が揃っている

社員数72名という規模の会社ですが、設計、開発、営業、製造、品質保証、生産調達などの全機能を備えています。この「適切に小さい規模」でものづくりができること

とが何よりの強みで、仕事の早さと柔軟さを可能にしています。

近年、お客様から水平搬送車両を自動化してほしいという依頼をいただいた際には、この強みを生かしてタグノバけん引車の無人搬送自動化システムを短期間で開発しました。

地域と連携して未来へ前進

令和6年10月、創立50周年記念として岩倉市推奨の桜「シンダイアケボノ」3本を市内造園会社の協力を得て構内に植樹しました。岩倉市に拠点を移したことをきっかけに、他にも市役所や市内の企業との連携を積極的に行っています。また今後は新卒者を地元から雇用したいと意気込んでいます。

「すべてのステークホルダーと幸せな関係づくりができるように。50年の節目を迎えたユニカは、社会に必要とされる存在であり続けられるよう懸命に前進しています。

「人材ではなく人財。社員を尊重し、それぞれが力を発揮して活躍できるような会社でありたい」と伊藤代表取締役社長。福利厚生が充実し、年休が取りやすいのはもちろん、男性の育休取得も多いそうです。

会社の雰囲気も明るいことも自慢。総務部の丹羽さんは「ベトナム出身者も多く採用していますが、社員同士のコミュニケーションも活発です。さらに毎日社長自ら一人ひとりに挨拶をしてくださる事がその理由の一つだと思います。」と笑顔で話してくれました。



エンジンオイルや工業用潤滑油をつくる

さんこうせき ゆ こうぎょうかぶしきがいしゃ
三興石油工業株式会社

〒482-0026 岩倉市大地町上千 8-1

TEL: 0587-37-9881

http://www.sanko-sekiyu-kogyo.co.jp



会社概要

1973（昭和48）年に設立した石油製品製造販売会社です。主に自動車用や工業用・金属加工用のオイルを製造しています。大地町の工場群の中にあり、大きな赤いオイルタンクが目印です。

会社内に研究室・生産設備があり、成分分析や開発も行うことができます。ここで開発した環境に優しいチェーンソー用オイルは、エコマーク認定を取得しています。



自動車のエンジンを円滑に機能させるために必要なエンジンオイル、ストロークの灯油、金属加工に必要な工業系潤滑油など、身の回りにはいろいろな石油製品があります。石油製品を製造するオイル専門メーカーは国内に30〜40社、愛知県内には数社ありますが、そのうちのひとつが岩倉市にあります。

レーシングチームと一緒にエンジンオイルを開発！

エンジンオイルは、ガソリン用やディーゼルエンジン用、タクシーで使われるLPG用など様々な種類があります。ベースとなるオイルに様々な添加剤を調合してつくりまします。日本はアメリカ石油協会（API）が設定する規格を採用しており、その規格に合致しているかどうか判断基準となります。そのためエンジンオイルは差別化を図るのが非常に難しく、ブランド力が必要な製品です。中小規模の専門メーカーでは一般消費者に直接販売することは非常に少なく、主に修理工場向けに販売しています。

また、わが社ではレーシングチームとタイアップして自動車レース用のオイルを開発しています。そのような会社は専門メーカーの中でもそんなに多くはありません。

レースの場合は燃費よりもパワーを出すことが重要です。何度でも使える必要はありません。レーシングドライバーと相談しながら、調合、試走、調合、試走を繰り返す。

返し、オイルや添加剤の調合を決めます。最終的に調整した油は、色、粘度、引火点等を分析して記録します。このような細やかな試行錯誤は大手メーカーではできないので、わが社の強みでもあります。

企業の要望に応じて油を調合。注文の翌日に発送！

車工場やネジ工場など、工場にはたくさんの機械が並びます。これらの産業機械を動作させる時には、機械の回転部分の摩擦を抑えたり、機器の冷却や防錆のために工業用潤滑油を使います。

1分間で加工できる部品個数が会社の存続をわける金属加工現場では潤滑油の役割は重要です。機械の回転数を上げることができるようオイルなど、お客さんごとの要望に応えたオイルづくりに取り組んでいます。製造業現場への女性の進出が進む中で「油臭くない油」をつくることも要求の一つになっています。

いずれも、全国どこであっても注文いただいた翌日に発送できる体制を整えており、多品種小ロットに迅速に対応できる点も強みです。

「たくさん失敗しましたが、試行錯誤して要望に沿ったオイルをつくり、お客様に喜んでもらえた時は本当に嬉しかったです。ネットでも何でも調べられる時代ですが、試行錯誤を重ねて手に入れた『知恵』は簡単に手に入らないと思っています。」創業3年目に初の新卒採用として入社し、先代社長と奔走し続けた小野専務の目がいぶし銀のようにキラリと光りました。

商品のパッケージを企画する

ふじとく し き かぶしがいいしゃ
藤徳紙器株式会社

〒482-0026 岩倉市大地町野辺 38
TEL: 0587-37-2181
<https://www.fujitoku.co.jp>

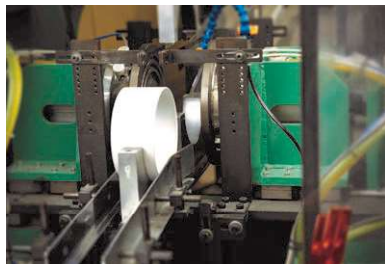


■会社概要■

1961 (昭和 36) 年、名古屋市に設立したパッケージ及び各種包装用品・紙製品の企画製造販売会社です。

初期は、主に大手ガラス製品メーカー向けのパッケージを製造しており、業績拡大のため、1970 (昭和 45) 年に岩倉市に移転しました。

1987 (昭和 62) 年には、製造した紙器に商品を箱詰めするパッキングセンターも開設しました。



お店や観光地に並ぶお菓子やお土産、食器や食品が入っている箱など、身の回りには様々な紙の箱（化粧箱）があります。そのパッケージを企画・デザインし、製造販売している会社が岩倉市にあります。

時代の流れをよんで 観光土産のパッケージに着目！

当初は、贈答用の食器を入れるためのギフト箱をメインに製造していました。そのほかにも、引き出物やお中元・お歳暮などで使われる鯉節やコヒーなどが入っている箱などを企画提案していました。

しかし、時代の流れの中で、お中元・お歳暮文化が低迷し、引き出物も地味婚化、カタログ商品に移行する中で、どんどん紙容器が使われるシーンが減っていきました。そこで着目したのが「観光土産」です。温泉地や観光地に行くと、カラフルなパッケージの様々なお土産が並んでおり、その市場に企画力が活かされると考え、営業活動をした結果、お菓子メーカーやアミューズメント施設、関東・関西などの有名テーマパークなどにおいていただけたようなパッケージを企画・開発、製造するようになりました。

強み①フジシカン®の製造

当社の強みの一つは「フジシカン®」が製造できることです。「フジシカン®」とは、紙でできた丸い形の箱です。紙を平巻きし、機械でカールしたものをフジシカン®といいます。四角い箱よりも手間がかかる分、「特別感」が生まれ、商品をよく

り一層引き立てます。ギフト品・洋菓子・和菓子など様々な商品にご利用いただいています。

紙缶は同じ紙、加工でも一般的な四角い箱と比べて高級感を演出することができ、丸みのある形状は店頭で並べた時に奥行きが感じられ、ディスプレイ効果が高い上、スチール缶に比べて軽量で取扱いも容易です。また、テーパー型や楕円型などバリエーションも豊富。異素材との組み合わせも可能です。箔押し・リボンなどで装飾を施すこともできオリジナリティを手軽に演出することができます。

強み②企画力

もう一つの強みは、創業75年以上で培った企画力です。お客様から頂いたイメージやご指示を基に、当社の保有する知識とノウハウでご希望に合わせたパッケージを作成しております。箱の材質に合った加工やデザイン、サンプルカットまでをお任せいただけます。また、紙以外のPET・缶・段ボールなどの素材も豊富に手配できるので、リボン付きのギフトボックスやおもちゃ風なギミックボックスまで、バラエティに富んだ提案が可能です。インテリアや小物入れなどに、二次利用していただけるような魅力のあるパッケージ作りを目指しています。

「企画段階から携わった製品がテーマパークなどで売られているところを見ると、ものすごく達成感が得られます。紙以外の素材の製品も提案するなど、企画提案部門に力を入れています。」

藤徳紙器（株）は、パッケージをトータルにコーディネートされています。

心地よい睡眠を届ける寝具づくり

かぶしがいいしゃ
株式会社ニワユー

〒482-0033 岩倉市神野町 343-1
TEL: 0587-37-2277
http://www.niwa-yu.jp



■会社概要

1960 (昭和 35) 年に、ふとんカバーの製造販売会社として創業しました。その後、まくらの製造・卸、リース事業をはじめ、1984 (昭和 59) 年に、製綿から仕立てまでの自社工場を整備し、ふとんの製造・卸をはじめました。

2004 (平成 16) 年には、抗菌・滅菌効果の高い光ギンテック処理工程を導入しました。ギンテックの販売・建物への施工も行っています。

ニワユー株式会社の目印は「星印」です。



布団や寝具用カバー等を製造する「寝具製造業」は全国に489事業所(2023年経済構造実態調査)あります。そのうちの1つが岩倉市にあります。

1枚1枚要望に添えてつくる職人の技

今の主な事業内容は、寝具の製造事業とリース事業が半々の割合です。敷布団や掛布団、布団カバー、シーツなどを製造し、ホテルや旅館などに販売したり、寮や社宅、斎場(お通夜の際に利用する)にリースしています。

業務用やリース用の布団の製造は、自動綿入れ機を使って行いますが、個人の方から注文をいただいたときには、職人さんが綿を入れる昔ながらの製法でつくることもあります。

機械で作った布団はどうしても数か月程度で凹んでしましますが、職人さんがつくったものは長持ちします。1枚1枚手作りで行うと、中心部分は体重がかかりやすいので、中に入れる綿を厚くしたり、1枚、2枚の注文から対応できたりします。これは大手にはできない対応だと思っています。

布団は手入れをして長く使い続ける物

使い捨ての時代と言われていますが、昔は布団屋さんの多くは綿を打ち直す機械を持っており、布団がぺたんこになつてくると中の綿を出して、打ち直して使

い続けていました。最近では布団屋さんが機械を持っていないので、打ち直しの依頼が来ることもあります。ただ、注文は減っています。

機械製造と布団製造の関係

実は、今、製綿機のメーカーが国内に数社しかありません。かつては名古屋にも営業所がありましたが、撤退してしまつたため、今は、小さな修理は地元で機械メーカーに部品を加工してもらっています。大きな修理には、東京から来ていただいています。機械のメンテナンス自体が難しくなっています。

抗菌効果の高い布団

布団のリース事業の中で、お客様から衛生面に対する要望があり、同じ岩倉市内のアスカテックさんが製造する「ギンテック」を布団の抗菌・滅菌に使っています。ギンテックは暗所でも効果があるため、押し入れ内など光が当たらない場所でも効果が期待できます。これも他社と差別化を図る強みです。

「柔らかい布団がいい人、硬い布団がいい人、人それぞれ。寝具にも好みがある。そのお客様の要望に添えて、試行錯誤した結果、『よく寝れた』『腰痛が治った』との感想をいただく時に、一番達成感を感じます。手づくりで布団をつくっている事業所は少ないので、この職人技があることを強みとして引き継いでいきたいと思っています。」先代から会社を引き継いだ丹羽社長は、厳しい寝具製造業界の中で自社の強みを活かして、じつくりと事業を営んでおられます。

商品に安全と安心をプラスするパッケージ

詰め替え用のシャンプーや洗剤が袋に入って売られているのを見たことがありますか。身の回りの生活用品や食料品などが安心安全に運ばれるために必要不可欠なパッケージを作っている会社が岩倉市にあります。

中身に合わせたパッケージを提案

お客様の注文や相談を受け、包装する内容物に合わせてパッケージを提案します。キャップの有無、食品であれば長期保存を可能にするバリア性をどの程度持たせるのかなど形状から素材まで当社が扱う規格袋は約400種類に上ります。お客様の要望やお客様がパッケージに注入するために必要な設備を持っているかどうかに合わせて最適な提案をします。また、デザイン部門があるため、内容物のイメージを魅力的に伝えるパッケージデザインをご提案することも可能です。仕様が決まると必要な数を短期生産し、納品します。少量生産が可能のため、多くの中小企業や町の洋菓子店などからも注文をいただいています。企画・デザイン・製造・販売まで自社で一貫してできることが強みです。この体制が品質の徹底管理を可能にしています。

扱いやすく便利な夢パック®

1994年に夢パック®というオリジナル商品の製造販売を始めました。注ぎ口とキャップが付いていて、食品や化粧品などの詰め替えなどに幅広くご利用いただいています。この形状のパッケージは市場の先駆

けだったこともあり、10年ほど経ってから売れるようになってきました。

夢パック®は例えば凍ったアイスを揉んで溶かしながら食べることができ、練りごまのように油分が分離する食品であれば揉んで混ぜることができるとユーザーの利便性を高めることが可能です。

瓶や缶、プラスチックボトルと比べて軽量が体積が小さいため、お客様にとっては運搬がしやすい、保管の場所を取らないといったメリットがあります。

現在力を入れているのが環境負荷を低減することです。例えば石油由来の材料の使用を抑えてバイオマス素材やリサイクル素材の割合を上げるなどの取り組みを進めています。

働きやすい環境で社員が定着

10代〜30代の若い社員が多く、生産現場などで女性が活躍しています。育休が取りやすく、女性はもちろん男性の中にも2か月の育休を取得する人がいます。今では女性の従業員は4割程度まで増え、結婚や育休などで辞めることはほとんどありません。

働くことについて柴田博幸社長は「楽しむ、そういう気持ちでやるといいかなと思いますけどね」と話してくれました。今回のインタビューに学生として参加させていただいた私たちにとって今はまだ完全に理解できないですが、働くことに対する新しい考え方を気づかせてくれました。働きやすい職場づくりや使いやすいパッケージを作るために積極的に新たなことに挑戦するその姿勢には、楽しむという考え方が隠されていると感じました。

かぶしがいいや カウパック株式会社

〒482-8652 岩倉市大地町上千 31
TEL: 0587-66-6314
<https://www.cowpack.com>



■会社概要

創業者の牛田さんが1952(昭和27年)に設立した(株)牛田商店はキャラメルを製造していました。その後、事業内容を変更して軟包装パッケージの専門メーカーとなり、1972(昭和47)年に商品名「カウパック」の名前を社名としてカウパック(株)に変更しました。東京支店、仙台・名古屋・大阪・熊本に営業所がありますが、工場は岩倉だけにあり毎月およそ1500万枚を製造しています。



進化する産業に伴走するコーティング技術

にほん かぶしがいいや
日本コーティングセンター株式会社
名古屋工場 第1工場
〒482-0017 岩倉市北島町トウカン 31
TEL: 0587-50-6601
<https://www.jcc-coating.co.jp>



■会社概要

1985（昭和 60）年に住友金属鉱山（株）と住友商事（株）の合併会社として設立し、米国マルチアーク社より PVD（物理蒸着）法の技術を導入しました。2021（令和 3）年に岩倉市に名古屋工場第 1 工場を新設。被膜処理による耐摩耗性、耐腐食性、潤滑性を活かし、新製品や生産技術開発を支援。省エネルギーや長寿命化により持続可能な社会実現に貢献しています。2004（平成 16）年からはトーカロ㈱グループの一員として、先進的生産技術を提供し続けています。



表面処理という言葉聞いたことがありますか。金属などの表面に薄い層を作って「滑らかにする」「熱に強くする」「摩擦を防ぐ」などの機能を加えるコーティング処理のことです。企業の困りごとに合わせて被膜を選定し、課題を解決に導く会社が岩倉市にあります。

物理蒸着で拓く被膜の可能性

表面処理といえば、メッキ処理や熱処理が一般に知られていますが、当社が得意としているのはそれらとは異なる PVD（物理蒸着）という処理です。

代表的なのが PVD イオンプラズマコーティングという方法で、真空状態の装置の中で金属を熱し、その蒸気をコーティングしたいものの表面に当てることで密着性に優れた被膜を形成します。

薄くてすごい！被膜の力

数マイクロメートル（1000分の1ミリ）という非常に薄い被膜を付けることで、驚くような機能が加わります。

例えば窒化チタンというセラミックスでコーティングすると、硬さが増して非常に強くなります。ドリルの先端にこの被膜をコーティングすれば、削ることで生じる摩擦を減らすことができます。DLC という炭化物物のコーティングは潤滑性を良くし、摩擦を大幅に減らします。この被膜をコーティングすることで、例えば自動車のエンジンの動きをスムーズにすることができます。

当社が薄い被膜を専門としている一方、親会社であるトーカロ（株）は厚みのある被膜をコーティングする高い技術を持っています。お客様から相談をいただいた際、グループとして提案できる幅が広いことが強みです。

長寿命化で環境に貢献

近年の自動車は衝突した時の安全性を高めるため、高張力鋼板という非常に硬い材料が使われるようになりました。高張力鋼板をプレス成形するためには、その強度に適した金型が必須になります。

当社が開発した技術でコーティングすれば、その金型は高張力鋼板を成形する際の高負荷に耐えることが可能になります。コーティングをすることで性能を向上させ、何度も新しい金型に交換する必要がなくなり、一つの金型の寿命を延ばすことになります。

この事例のように環境負荷を減らすことにつながるので、当社のコーティング技術のことを「環境貢献型製品」と呼んでいます。

「お客様からお預かりした製成品を装置の中に入れて PVD（物理蒸着）を行うのですが、表面に少しでも不純物があったり湿度が高すぎたりすると被膜が付かないので細心の注意を払っています」と第 1 工場の統括リーダー 兵藤さんは教えてくれました。

チタン、窒素、炭素、アルミニウムなど様々な元素を組み合わせて新たな被膜を開発する高度な知識と経験、仕様通りの被膜を確実に施す現場での熟練の技術が、日々刻々と進化し続ける産業を支えています。

まるはちこうきかぶしがいいしゃ
丸八工機株式会社

〒482-0031 岩倉市八剱町 478
TEL: 0587-37-1171
<https://maruhachi.nagoya>



■ 会社概要

1951（昭和 26）年に丸八製作所として創業し、1953（昭和 28）年に丸八工機（株）を設立。ブリヂストンサイクル（株）との取引に加えて自社ブランド「MARUHACHI」「iWA」を展開しています。現在まで3代にわたり事業を継承し、2021（令和 3）年に創業 70 周年を迎えました。

年間休日 130 日、有給休暇 20 日という労働環境を実現し、家族やプライベートを大切にしながら働くことのできる職場です。



自転車部品の技術と挑戦心で世界に漕ぎ出す

自転車は外に置くもの。そんな常識を覆す室内用の自転車スタンドを開発し、岩倉市内の本社を拠点として世界の市場に漕ぎ出している会社があります。

自転車パーツのスペシャリスト

創業当時から現在に至るまで、電動アシスト自転車や街乗り自転車、子ども用自転車のキャリア・スタンド・サドル・バスケットなど自転車パーツの企画製造を行っています。

ブリヂストンサイクル（株）の依頼を受けて製造・納品させていたたく事業に加え、平成12年からは「MARUHACHI」という自社ブランド名で全国の主要なホームセンターに卸す事業も開始しました。

他力に頼らず自力を鍛える

長年、企業様を対象にした事業を続けてきましたが、新たに個人のユーザー様に直接販売するビジネスにも挑戦したいという想いで、平成26年にiWAという自社ブランドを立ち上げました。

iWA という名前は、岩倉市の「IWAKURA」の頭3文字から付けていて、岩倉市発のジャパンブランドという意味を込めています。このブランドではこれまで培ってきたものづくりの知識と技術を活かし、自転車を縦にして室内に保管できるオリジナルスタンドを企画。製造から販売まで手掛けています。

令和2年からのコロナ禍で、自転車が「密を避けるための移動手段」として世界

的に注目され、自転車とその関連商品の需要が増加しました。iWAブランド立ち上げ当初からSNSを含めたWEBマーケティングに力を入れていたため、店舗に向くことなく海外からも注文できる仕組みができており、需要に応えることができたと自負しています。現在では、幅広い自転車を取り扱うTREK直営店でiWA製品を展示・販売している他、自社ECサイトとオンラインショッピングサイトで販売しています。

やらないとわからない喜びがある

iWAブランドでは老舗家具メーカー「カリモク家具」と一緒に製品開発したり、人気Youtuberに宣伝大使になってもらったり「何でもやってみる」ことを大事にして、できた時の喜びを感じています。

最大の強みは社員です。iWAブランドのWEBマーケティングや海外展開を担当している社員は元々、事務職員として入社していますが、会社が新しく自社ブランドを始めるといふ変化を受け止め、英語やWEBスキルなどの得意分野を自ら積極的に伸ばして支えてくれています。

「100年企業にしたい。できる限り存続していることが、社会にとっても働く人たちにとっても望ましいと考えています」と河村代表取締役。そのためには、現在の事業に固執することなく、柔軟に新たな分野にも挑戦していく。丸八工機（株）は「事業に関わる全ての人が幸せになるために」という経営理念を軸に100年企業を目指して邁進しています。